

た か し



杉並区立高井戸第四小学校

ともに学び、ともに挑戦する 2 学期に

副校長 米山 美智子

長かった夏休みを終え、子供たちの元気な声と笑顔が学校に戻ってきました。

この夏も日本各地で厳しい暑さが続き、酷暑日という言葉も聞かれました。また、熊本県の地震災害や千葉県やh北陸地方をはじめとする各地での豪雨災害により亡くなられた方々に、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興と、安心して日常を取り戻されることを願っております。私たちは今、当たり前の日常の中で学びを進められることのありがたさを改めて感じています。互いを思いやり、支え合うことの大切さを心に留めながら、2学期を迎えたいと思います。

子供たちにとって夏休みは様々な体験を通して成長する期間ですが、教職員にとっても学びを深める大切な時間です。今年、本校では国語・算数・道徳・体育の教科研修会をはじめ、学校保健委員会での学校医による講話、連携する幼稚園・保育園への訪問研修、学校運営協議会委員や学校支援本部の皆様との懇談など、多くの学びの機会に恵まれました。

教科研修では、教科こそ異なるものの、共通していたのは「子供が主体的に学ぶ授業をどうつくるか」という視点でした。各教科で学ぶ価値を見つめ直し、発問や課題設定の工夫、子供同士の対話を生かした学び、子供自身の言葉でまとめる活動などについて学び合いました。参加した教員からは、「どんな力を身に付けさせたいのかを明確にしたい」「子供の思考を深める発問を工夫したい」「2学期にぜひ実践したい」といった前向きな声が数多く聞かれました。

また、学校保健委員会では、学校医の先生方から子供たちの心身の健康について専門的な見地からお話をいただき、健やかな成長を支える環境づくりの大切さを再確認しました。連携する幼稚園・保育園への訪問研修では、就学前の子供たちの育ちや学びに触れ、学びの連続性について理解を深めることができました。連携園の先生方の子供たちの「やりたい」という思いを引き出す声掛けや見守りが、子供たちの主体性を育てることにつながっていると感じました。さらに、学校運営協議会委員や学校支援本部の皆様との懇談では、地域の方々が常に子供たちを温かく見守り、支えてくださっていることを改めて実感しました。

この夏の学びを通して私たちが再確認したのは、子供たちに主体的な学びを求めるなら、まず教師自身が主体的に学び続ける存在でありたいということです。そして、子供たちの成長は学校だけでなく、家庭や地域、専門家の皆様とのつながりによって支えられているということです。

2学期は、運動会や音楽会をはじめ、多くの行事や学習活動が予定されています。子供たちには、自ら考え、仲間と対話しながら学びを深め、失敗を恐れず挑戦する中で、一人一人が成長を実感できる学期にしてほしいと願っています。私たち教職員も、この夏の学びを生かしながら、子供たちとともに学び、ともに挑戦し続けます。

子供たち、教職員、そして家庭や地域の皆様が、ともに学び合い支え合う中で、実り多い2学期を創っていきたいと思います。今学期も、本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



☆高四小のホームページがリニューアルされます☆

学校ホームページが2学期から新しくなります。いろいろな情報をアップし、学校の様子をお知らせしていきます。

どうぞお楽しみに。(<https://suginami.schoolweb.ne.jp/13020026>)